人権通信

令和三年三月二十四日発行　第六号
発行　城ノ内高校人権委員会
レベラーズ

こんにちは、人権委員会です。桜の便りもちらほら聞こえはじめ、いよいよ春らしくなってきましたが、皆さんはいかがお過ごしですか。

さて、今回の第六号が今年度最後の人権通信となります。担当は四一・四二・四三・四四・四五ＨＲです。

私が今年度の人権学習で最も印象に残ったのは、コロナ差別についての学習です。新型コロナウイルス感染症によって学校が休校になったり、いろいろな行事がなくなったりしましたが、それだけでなく、感染者に対する差別が問題になりました。

私は、行事が減るのは嫌ですが、感染対策ということであれば仕方がないと思います。しかし、差別だけはどんな理由があってもしてはいけないことです。確かに新型コロナウイルスに対する不安や恐怖はあるかもしれませんが、そのような気持ちは誰もが持っているので、みんなで協力して解決していくべきだと思います。

私も、手洗い・うがい・消毒などの感染対策や、コロナ差別にならないよう発言などに気をつけるなど、自分自身でできることから一つずつやっていきたいと思います。

昨年五月、アメリカ合衆国で黒人男性が白人警官に取り押さえられた際に死亡させられるという事件がありました。この事件で、黒人男性に対する白人警官の過剰な暴力が明らかになりました。

当時の私は、人種差別を歴史の教科書で学んだ程度であり、遠い昔のこととしか考えていなかったので、この事件が起こったときにとても大きな衝撃を受けました。暴行の様子を撮影した動画は全世界に拡散し、多くの著名人がこれに関してインターネット上で意見を述べました。そのうちの一つに「Ｂｌａｃｋ　Ｏｕｔ　Ｔｕｅｓｄａｙ」というものがあり、女優のエマ・ワトソンさんやＭＬＢの大谷翔平選手など多くの著名人が、ハッシュタグと一緒に黒いタイルを投稿していました。

これを機に、私も周りのすべての人を尊重し、思いやりを大切にしていこうと改めて思いました。

今も収束しない新型コロナウイルスの影響。医療や経済だけでなく、人権の面でも問題が発生していた。

例えば新型コロナウイルス感染者への差別や、県外ナンバー車へのいやがらせなどだ。私たちは日々人権学習を行っている。大人もそうだった。しかし、いざ攻撃対象を見つけると一斉に攻撃する。未知のモノに対する恐怖心、ゆがんだ正義感、そんなつまらないもので他人を傷つけていいはずがない。

今一度、自分の行動を思い返してほしい。こんな状況だからこそ、他人に寄り添う選択を誰もができるようにしていかなければならないと思う。

私が今年の人権学習で最も印象に残っているのは、ＳＮＳについての学習です。それは、ＳＮＳ上のトラブルにあう状況を考え、どうすれば事前に防げるのかを考えるものでした。

私がこの学習を通じて感じたのは、トラブルは発信者の「言葉不足」や受信者の「理解不足」またはその両方から生まれるものだということです。こういった言葉の問題は、人権学習の時に課題にあげられることが多いのですが、親しい人との間では配慮がおろそかになりがちです。ネットいじめを防ぐためにも、ＳＮＳの使い方について今一度考え直してみる必要があると思います。

先日、東京五輪組織委員会前会長の森喜朗氏の女性蔑視発言が問題となった。その発言はさまざまなメディアに取り上げられたが、私は報道のあり方に少し疑問を持った。それは報道が森氏個人に対する批判が主だったことだ。

私はこの問題を解決するには、社会全体のジェンダーに対する価値観を変える必要があると考える。なぜなら、個人の価値観は社会の影響を受けて形づくられるが、現在の日本社会は今なお男性中心の面が多いからだ。そしてこの社会を変えるには、次世代を担う私たちがジェンダーに対しての正しい理解を持ち、発信していく必要がある。そのためにも、まず私自身がジェンダーについての学びや理解を深めていきたい。

各ホームルームの人権委員、及びレベラーズ部員の皆さん、人権通信の発行に協力していただきありがとうございました。

四年生の人権委員の皆さんの意見はどうでしたか？皆さんも、この機会に人権問題について考えたり、家族と話してみたりしてください。この人権通信を、人権について考えるきっかけにしてもらえるとありがたいです。